



鼎談出席者

伊藤一正氏
株式会社建設技術研究所
国土文化研究所 企画室長

羽生裕子氏
有限会社東京水上倶楽部
代表取締役

畔柳昭雄氏
日本大学理工学部 海洋建築工学科
親水工学研究室教授

会場：水上レストランバー「CANAL CAFE」

ら水辺の持つレクリエーション価値や生物的な価値が見直され、江戸川区の古川親水公園の開園や東京都の海上公園構想などが進展します。そうした学会や行政の動向を追い風に、ウォーターフロントをキーワードとして一挙に水辺へ人々の関心が向いたのです。

伊藤 高度経済成長期に東京では多くの河川が埋め立てられ、公害でひどく汚染されました。70年代半ばから、元のきれいな川に戻そうとする動きが出てきます。87年に財団法人リバーフロント整備センターが設立され、その頃から建設省（現・国土交通省）も本格的に河川再生に取り組むはじめました。そしてここ数年、川を起点にまちを見ていこうとする「川を中心としたまちづくり」が各地で急速に盛り上がりつつある気

がします。

羽生 今から91年前に祖父が江戸城外濠の一角を利用して、東京初のボート場を開設しました。私自身も、その牛込濠で育ったので、ふだんから水に親しむのは自然なことでした。子どもの頃は、お濠で捕れたエビを食べられるくらい水がきれいだったものです。隣には材木屋さんがあって、材木を海に流していました。

でも飯田橋駅ビルが建って隣のお濠も埋め立てられました。川を通じて海との交流もあった、かつての水辺の賑わいを取り戻したい。そんな思いをこめて、ボート場を併設した「カナル（運河）カフェ」という名前の水上レストランバーを13年前にオープンしました。昔のよいものを保存するには、人がきちんと使って残さなければいけない。ヨーロッパの古いまちなみなどを見てくると、そう痛感します。

川の見える病室だと明らかに回復が早い

伊藤 2年前、河川の汚染状況と、流域での刑法犯認知件数や離婚件数など社会・経済指標との相関関係を探る論文を書きました。川の汚染はBOD（生物化学的酸素要求量）値

特集 水辺のポテンシャル

河川や海浜などの水辺は、過密化する都市の貴重なオープンスペースだ。癒しの空間であり、ヒートアイランド現象の緩和効果も研究されている。都市の川は埋め立てられ、掘割は暗きよ化しているが、水辺の再生はまちなか緑化とともに、都市の居住環境を改善する手段の一つだ。〈都市の水辺〉の潜在力をまちづくりに活かす道筋を探ってみよう。



ウォーターフロント開発で都市の水辺に目が向く

水辺 鼎談

畔柳 ウォーターフロントという言葉は、最近では少し下火になりましたが、1980年代後半には、日本中を席卷する勢いでブームになった言葉です。本来は、アメリカで始まった都市の臨海部再開発を指すものでしたが、日本にも飛び火することで、東京や大阪、横浜の臨海部を皮切りにして、各地の港湾地区や臨海部で再開発が始まり、一躍ブームが巻き起こりました。

一方で、都市の自然に対する認識も高まり、その代表的な指標として川や海の水質浄化が叫ばれました。それらの相乗効果として、都市の水辺が注目されるようになったと思います。

1971年、土木学会の研究発表で「親水」（水に親しむ）という言葉が初めて使われました。その頃か



羽生裕子氏
有限会社東京水上倶楽部
代表取締役
1918年、祖父が外濠の牛込濠につくったボート場を「憩いの場として、もう一度多くの方々に利用してもらいたい」と1996年に水上レストラン「CANAL CAFE(カナルカフェ)」をオープン。かつての自然を取り戻したいと活動しており、昨夏は牛込濠にホテルが飛んだ。

を指標とし、全国109の一級水系河川を無作為に抽出して定量比較したところ、有為な相関関係が認められたのです。奇妙に思われるかもしれませんが、これは「建物の窓が割れたまま放置されていると無関心の象徴で犯罪が起きやすい環境になる」という「割れ窓理論」に通じる、と犯罪学の先生も指摘していました。川が汚れていると犯罪率や離婚率が高くなることを示唆しています。川の様子と人の心のありようは、どうやら密接に関係しているようです。

また、川の癒し効果については、全国の川べりの病院で調査した結果があり、川が見える病室とそうでない病室では、前者の方が回復に要する時間が圧倒的に短いというデータが出ています。具体的に何が効いているのかは今後の分析が必要ですが、

きないか、と考えたのです。そこで、軽量で加工精度が高く、そのまま仕上げ材になり、熱伝導率が高く猛暑の炎天下でもあまり熱くならない、3R(リデュース、リユース、リサイクル)にも優れたエコ素材であるアルミを使って、海の家を建てたのです。

メニューもラーメンやジュースではなく、コーヒーやペリエなどと工夫をしました。話題性も大きかったのですが、海の家イメージが変わると、こんなにも人の流れが変わるものかと驚きました。

海の家は7月から8月にかけて海岸に建てられ、それ以外は倉庫に眠っています。この10か月の間寝かせておくのはもったいないので、海岸の自然環境を堪能できるように、気温が高くなる5月の連休明けから10月までは海辺のレジャーのプラットフォームとして使ってもらえればよいと考えています。昭和30年代当初まで東京湾の湾奥の海岸にあった海の家は、春は潮干狩りの休憩場、夏は海水浴場、秋はハゼ釣りの拠点として使われていました。

伊藤 一年中使えれば、おのずと大勢が集うようになりますね。
畔柳 すると海辺に対する意識が芽

ならんかの影響がある可能性は高いようです。

羽生 空手など武道の世界では「よい気が流れる」「気を感じる」などとよくいうのですが、きれいな川の近くにいると、まさにそんな感じがしますね。昔の牛込濠がきれいだったのは、何十か所も湧き水があったからです。ところがお濠の下に地下鉄が通って湧き水がそちらに流れてしまった。そこで東京都が今、もう一度湧き水をお濠に戻そうとしています。

伊藤 本来あるべき、もともとの水循環を保てれば水はきれいになるし、まちの環境もよくなり、人の心にもよい影響がある。それは技術的には十分可能です。やる気があるかどうか。基本的には、その地域の住民が自分たちの川をどうするか、にかか

生え、好ましい循環ができるかなと期待しました。ただ、海の家は仮設建築なので、通年では建てられない法律の縛りがあります。建てる時も建築確認申請、保健所の認可、地元の家組合や観光組合の規則の遵守など、さまざまな規制の網があります。

伊藤 水辺で何かをしようとする、ありとあらゆる規制が必ず絡んできます。それを根気よく一つずつ外していく必要がありますね。

かけがえのない水辺に接する快適さ

羽生 ボート場は昔、お濠の周りに電球をともし、夜間営業もしていました。ところが、用水路に落ちたお子さんの裁判で国が敗訴したあたりから、水辺の事故の管理者責任が厳

っています。そこが動き出せば変わってくるはずですね。

畔柳 だから、どれだけ水辺にかかわれる場所や時間を増やせるか、関心を持つような仕掛けをつくれるか、でしょう。都市の住民は忙しくて、近くに水辺があることすら意識していないようですから。東京湾周辺で意識調査をしたときも、たった50m先の海辺にここ何年も行ったことのない人が数多くいました。

羽生 祖父の代からボート場をしてきたことで、お濠を守れたのかな、という気がしています。大勢の人にきていただける場所をつくることで、取り壊しを防げるからです。カナルカフェではお客さまに買っていただくコイのエサ代を寄付金にして浄化活動につなげています。そうやって、わずかでもかわりを持っていただ



伊藤一正氏
株式会社建設技術研究所
国土文化研究所 企画室長
江戸東京再生見コンソーシアム事務局長を兼任。河川環境・水環境再生プロジェクトや東京・日本橋川の景観再生などに尽力している。外国の河川再生事業にも詳しい。(財)リバーフロント整備センター客員研究員。著書に「都市と河川」など。

けると、変化に目が向くのではないかと。

伊藤 まさに、たくさんの人に見てもらうことで、川もきれいになるというわけですね。

規制の網を一つずつ根気よく外していく

畔柳 2004年に私たちは神奈川県葉山町の一色海岸に「アルミの家」を建てました。通常、海の家は夏の2か月間しか営業しないので、大きな資本は注ぎ込めません。ですから建物はおおむね安普請で見栄えが悪く、暗くて不潔なイメージになりやすい。その昔、葉山在住の作家、團伊玖磨が「夏の江ノ島の風景を壊しているのは海の家だ」と痛烈に批判していました。ならば建築の力で、マイナスイメージを払拭で

しく問われるようになり、夜にボートを出せなくなりました。

もちろん管理者は十分安全に配慮しなければなりません。その前提のうえでいうのですが、一方で自分の責任ないし保護者の責任という観点があまりに欠けてはいないでしょうか。年に一度、法政大学と共催するジャズフェスティバルは、水上に船を浮かべて観賞する趣向があり、ほんとうならワインやビールの一杯も召し上がりながらご覧になっていただきたいのですが、安全のためお飲みになるかたは陸上で、とせざるを得ません。これも歯がゆい思いをしています。

伊藤 欧米では自己責任の考え方が発達しているのです。例えば水辺に柵をつくるといった発想はまず出てきません。自分で招



畔柳昭雄氏
日本大学理工学部 海洋建築工学科
親水工学研究室教授
日本とアジアをフィールドに、水にかかわる建築、まち、環境、生態系ならびに人間行動について研究。神奈川県港湾審議会委員など。これまでのイメージを変える次世代型の海の家をアルミでつくり話題に。著書に「海の家スタディーズ」「都市の水辺と人間行動」など。



アルミの海の家
従来のイメージを覆すアルミで組み立てられた次世代型の海の家。畔柳教授が進める「海の家プロジェクト」の一環で2004年に建てられた(提供:畔柳昭雄氏)

いた事故は自分の責任。しかし今の日本では、管理者に全責任を転嫁しがちで、柵さえ設ければ管理者は責任を全うしたことになります。こうした慣習は、どこがおかしい。畔柳 利根川や淀川はかつて「暴れ川」と呼ばれ、大雨が降ると堤防が決壊して流域の家は浸水しました。しかし、川辺に住んでいればそんなことはあたりまえだから、屋敷を高くする、船を備え付ける、復旧を互いに助け合うといった手立てが講じられていました。川のそばに住む快適さを思えば水害はしかたないけれど、その代わりに準備と対策は怠らない。安全は人から与えてもらうも

Eボートが作り出す水辺と人と地域の交流

ともすれば疎遠になりがちだった水辺へ、再び人を近づけるボートがある。水辺に集う人々の交流を促すとともに、地域と地域を結ぶ「新たな流れ」をも作り出す。そんな試みが広がりはじめた。



伊藤 水辺の再生に30年ほど取り組んでいる知人がこんなことをいっていました。

水辺再生のカギは行政参加型のしくみづくり

羽生 カナルカフェも大雨になると浸水の憂き目に遭います。でも、水辺に接近している心地よさはなんにも代え難いので、年に何度かは、年末の煤払いをしない代わりに大掃除をがんばるのです(笑)。



お江戸日本橋舟めぐり
日本橋川や隅田川を環境に優しい電気ボートで巡り、ガイドとともに江戸の記憶をたどる。主催は江戸東京再発見コンソーシアム(提供:伊藤一正氏)

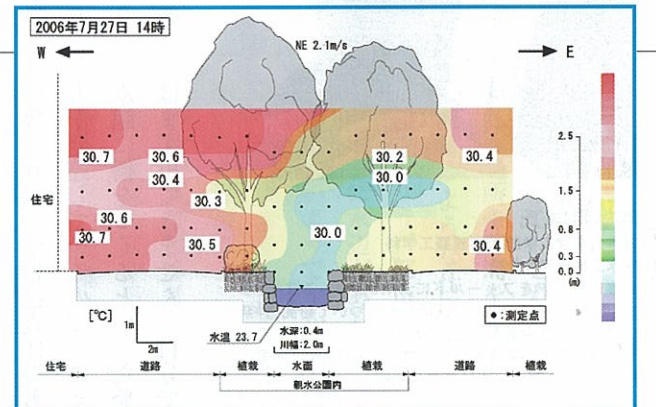


「住民参加型にすればうまくいく、というのは間違い。行政参加型にしなければいけない」と。

なるほど、と思いました。これはいける、と行政が判断して予算がつけば、それは間違いなく成功する事業になるというわけです。行政参加型のしくみをつくれるかどうかのポイントです。

畔柳 思い入れと現実とのギャップ、住民間での考え方の違い、行政との温度差。こうした行き違いを解消していくファシリテーターの役割が重要だと思えます。

伊藤 今、川を起点とした日本橋の



クールリニアパーク
親水公園を軸とした微気象(地上10mまでの気象現象)の計測結果。水辺は明らかに気温が低いことが見てとれる(提供:畔柳昭雄氏)

再生プロジェクトに地域ぐるみで取り組んでいるところです。江戸時代、日本橋周辺には蔵や魚河岸が建ち並び、舟運が盛んでした。日本橋三越、山本海苔店、榮太樓總本舗など、当時から老舗も多い。そんな歴史があるなら、日本橋川を中心に昔の風情を取り戻すまちづくりをしよう、といういろいろなアイデアが出ました。

その一つが「お江戸日本橋舟めぐり」というクルージングです。1年間は試験的に無料運航でしたが、2009年9月から有料にしました。地域の取り組みに合わせて行政も動き

出し、日本橋架橋百周年の2011年を機に橋のもとに船着き場を設ける計画も進んでいます。

畔柳 ヒートアイランド現象の低減効果も水辺の機能の一つ。私たちはクールリニアパーク(Cool Linear Park)線形冷涼公園)構想を検討しており、そのための調査を行っています。細長い血管のように都市を流れる川に植栽を増やすことで風の通り道をつくり、水面の冷えた風をまちなかに誘導し、都市を冷やすことはできないか。そうすれば東京もだいぶしのぎやすくなるはずですよ。

羽生 都市に水辺があることにより、鳥や魚が生息できるし、空の広さが守られています。そういう環境は子どもたちのためにも残していかなければなりません。

伊藤 生命の歴史38億年の99%は水のなかでの生活です。水とともに生きることは人間のDNAに刻印されています。水辺があること。それが人の住めるまちの条件なのです。

畔柳 水辺に関心が向いていくこみ過ぎると、かえって使いにくいものになってしまう。生活インフラとして水辺が自然にあるまちづくりを目指したいですね。



DATA
NPO法人 地域交流センター
所在地●東京都中央区湊1-9-8 八重洲第六長岡ビル3F
電話●03-3553-7344
URL●http://www.jrec.or.jp/
NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会
所在地●東京都中央区新川12-10-6カヤマビル703号
電話●03-5542-7577
URL●http://www.rac.gr.jp/

亀島川に行くEボート。水門の向こうに見えるのは大川端リバーシティ21のマンション群